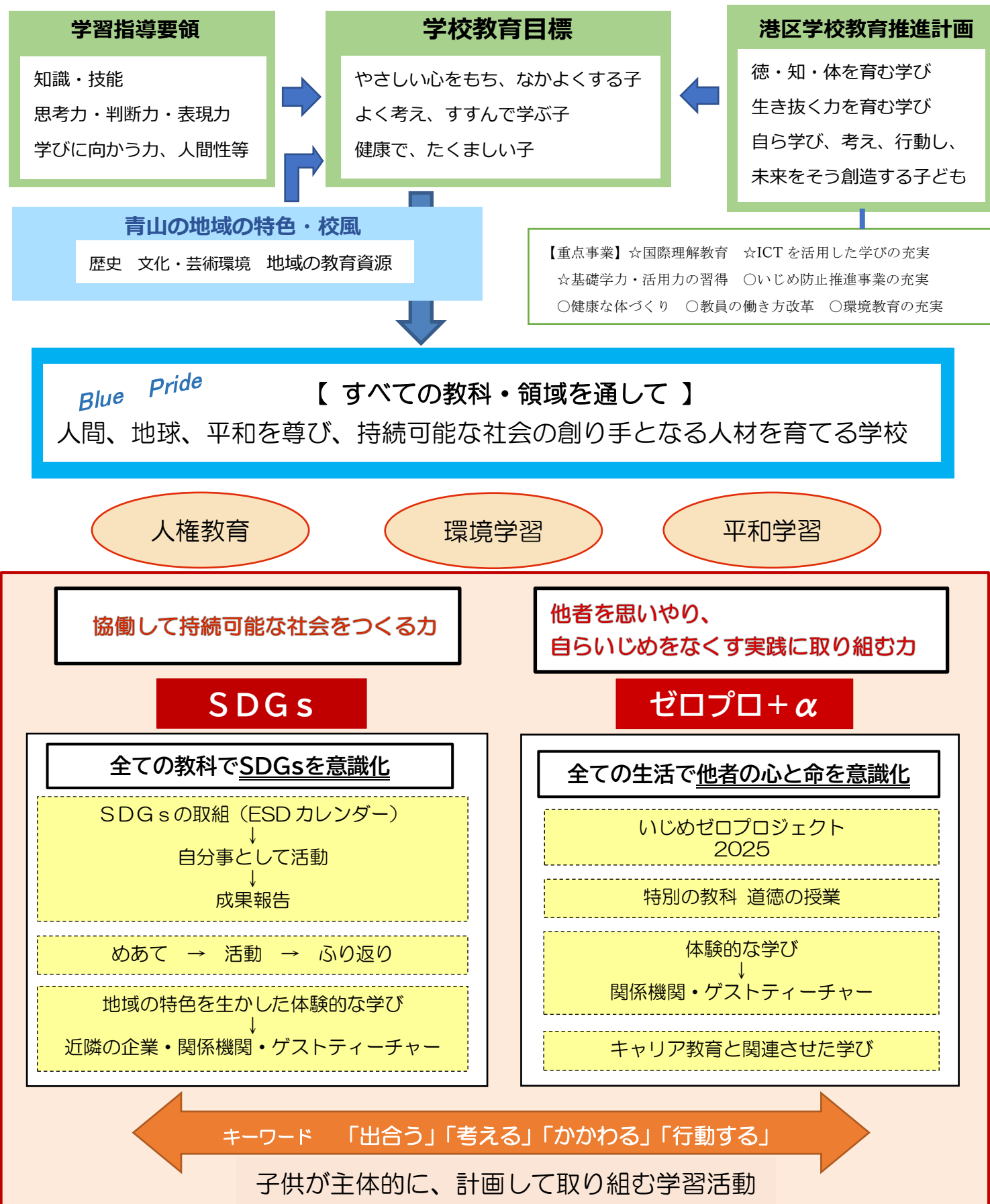


令和7年度 港区立青山小学校 学校経営計画

校長 可児 亜希子

< 学校経営のグランドデザイン（概要版） >



目指す児童像

協働して持続可能な社会をつくる児童

他者を思いやり、
自らいじめをなくす実践に取り組む児童

- よく聞き、学び、伝え、高め合う子
- SDGsの実現に向けて自分事として考え、行動する子
- 体を動かし、心身の健康のために努力する子

- 他者を思いやり、いじめをなくす努力をする子
- 笑顔であいさつ、感謝の意を表す子

～子供には分かりやすく「あ・い・う・え・お」～

- ◆「あ」 **あいさつ** → 相手意識・コミュニケーションの原点
- ◆「い」 **一生懸命勉強** → かしく
- ◆「う」 **運動** → たくましく
- ◆「え」 **笑顔** → やさしく
- ◆「お」 **お友達にやさしく** → やさしく



目指す教職員像

協働して持続可能な社会をつくる教職員

他者を思いやり、
自らいじめをなくす実践に取り組む教職員

- 自ら自分事として
SDGsの実現に向けて努力する教職員
- 子供が自らSDGsの実現に向け
努力する実践を続ける教職員
- 意欲を引き出し、学びに向かう力を育てる教職員
- 子供の学びのために、「出会う」「考える」「かかわる」
「行動する」児童を育てる教職員
- 子供が自主的に活躍できる楽しい実践を進める教職員
- 保護者・地域とともに互いを認め尊重し、協働して子供を育てる教職員
- 職場をワンチームととらえ、他者を思いやり、
子供のために努力を続ける教職員
- 笑顔であいさつ率先垂範、願いを受け止め、
誠意をもって対応する教職員
- 子供が自らいじめをなくす実践を続ける教職員
- 子供の人権を尊重し、厳しくも温かな児童に寄り添った指導を実践する教職員

～チーム青小、協働・共育・共生～
安心、安全、安定した学校を目指します



1 青山小学校の教育目標と今年度の重点目標

経営計画 詳細版

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ◎やさしい心もち、なかよくする子 | 重点目標 1 (思いやりの心) |
| ○よく考え、すすんで学ぶ子 | 重点目標 2 (主体的・対話的で深い学び) |
| ○健康でたくましい子 | (体力の向上・保健衛生) |

重点目標 1 ◎やさしい心もち、なかよくする子

学校は学ぶ場所である。思考力・判断力・表現力を身に付けるにあたり、心が安定し、環境が安全・安心な場であることは、学びに向かう姿勢を保つうえで大切である。関係機関と連携し、いじめの未然防止の取組を強化するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、互いのよさを認め合う指導の推進を重点とする。(人権尊重教育)

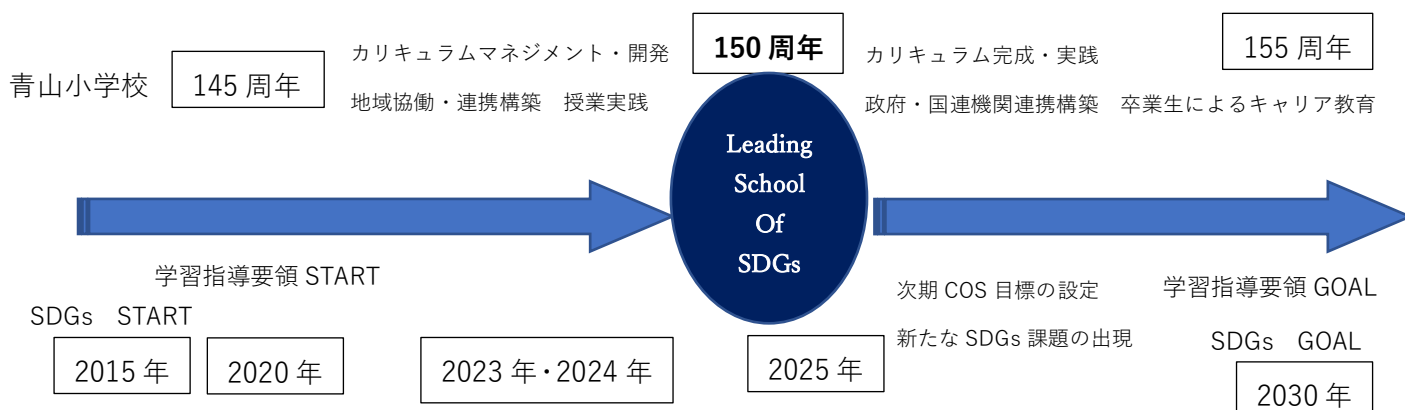
重点目標 2 ○よく考え、すすんで学ぶ子

昨今の社会情勢を見ても、地球環境や平和を自らの力で構築・維持していくために、「持続可能な社会の創り手を育てる」教育を展開することが急務である。自分事として身近な問題点をとらえ、自分たちの力で課題解決に向かう力は、やがて社会や地球を変えていく力になる。基礎的・基本的な学習内容を理解させ、学力の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを展開し、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。また、グローバル化が進む国際社会において、様々な人・団体と協働して問題の解決を図ることが不可欠である。本校の教育活動の柱である「人間・地球・平和を軸とした持続可能な社会を築くための学び」を二点目の重点とする。(E S D・国際理解教育)

2 今後 10 年間で青山小学校が目指す教育

- 能動的・体験的な心の教育を軸とした人権尊重教育の推進といじめ根絶の取組
- 持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成
 - I C T機器を使った、主体的・対話的で他者と協働した深い学びの達成
 - 地域、共生、文化、キャリア教育などを学ぶ、地域社会や人とかかわった体験的学びの日常化
 - 豊かな感性とグローバルな視点を養う文化体験活動の計画的実行
 - アート・音楽・日本文化・海外文化
 - 環境教育の充実(ビオトープ、みなと子どもエコアクション事業の取組)
- 健康・安全に関する知識の取得・体づくり・環境づくり

持続可能な社会の創り手となる人材を育てる
あらゆる教育活動はここに集約される



人間、地球、平和を尊び、 持続可能な社会の創り手となる人材を育てる学校

目指す児童像

協働して持続可能な社会をつくる児童

- ◇よく聞き、学び、伝え、高め合う子
- ◇SDGsの実現に向けて考え、自分事として行動する子
- ◇体を動かし、心身の健康のために努力する子

他者を思いやり、自らいじめをなくす実践に取り組む児童

- ◇他者を思いやり、自らいじめをなく努力をする子
- ◇笑顔であいさつ、感謝の意を表す子

目指す教職員像

協働して持続可能な社会をつくる教職員

- ◆自ら自分事としてSDGsの実現に向けて努力する教職員
- ◆児童が自らSDGsの実現に向け努力する実践を続ける教職員
- ◆意欲を引き出し、学びに向かう力を育てる教職員
- ◆児童の学びのために、「出合う」「考える」「かかわる」「行動する」実践を進める教職員
- ◆児童が自主的に活躍できる楽しい実践を進める教職員

他者を思いやり、自らいじめをなくす実践に取り組む教職員

- ◆職場をワンチームととらえ、他者を思いやり、児童のために努力を続ける教職員
- ◆笑顔であいさつ率先垂範、願いを受け止め、誠意をもって対応する教職員
- ◆児童が自らいじめをなくす実践を続ける教職員
- ◆児童の人権を尊重し、厳しくも温かな児童に寄り添った指導を実践する教職員
- ◆保護者・地域とともに互いを認め尊重し、協働して児童を育てる教職員
- ◆チーム青小の協働・共育・共生を軸に、安心、安全、安定した学校を目指す教職員

児童が学年・学級経営の柱となり、
教職員は、自らの指導を評価し、ふり返る。

4 各教育目標に対する具現化に向けた方策

《 基本方針と長期的な目標 》

開校 150 年の歴史と伝統を踏まえ、人権教育・環境学習・平和学習を通して、「人間・地球・平和」を愛する心の基盤を培い、持続可能な社会の創り手となる力を育てる。そのために、児童の主体的に学ぶ力や自らいじめをなくす実践に取り組む力を育成する過程において、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション技能、協調性等を育んでいく。また、地域コミュニティの核として青山の地域の特色を生かし、人と人とがかかわり合う体験的な学びを軸にした創意ある取組を実践するとともに、社会共生や地域貢献、キャリア教育に結び付く学びを実現する。全ての学習活動や学校生活は、将来の持続可能な社会の創り手を育成する手段であることを示していく。5 年後、次の学習指導要領が改訂される頃には、青山小学校が「持続可能な社会の創り手を育成するコア機関」となることを目指し、長期目標とする。

(1) 「やさしい心もち、なかよくする子」を育てるために（重点目標 1） → 短期目標

児童自らいじめをなくす実践に取り組む力を身に付け、あらゆる教育活動で人権教育を推進する。

① いじめゼロプロジェクト 2025

児童自らいじめをなくす取組を実践し、誰もが安心して過ごせる学校づくりに能動的に参画する意識を育てる。

月	学 年	内 容 ・ 備 考	月	学 年	内 容 ・ 備 考
4・5 月	6 年生	ゼロプロ 2025 オープニング	10 月	5 年生	青小のいいところ
6 月	4 年生	ふれあい月間（6 月）	12 月	2 年生	ふれあい月間（11 月）
7 月	あすなろ	カレンダーづくり	1・2 月	1 年生	ふれあい月間（2 月）
9 月	3 年生	いいところみつけ	2・3 月	6 年生	ゼロプロ 2025 ふり返り

② 「学校いじめ防止基本方針」にのっとり、特別の教科 道徳の授業をはじめ、全教育活動を通して、規範意識や互いのよさを認め、尊重し合う心情を育成する。

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ○道徳授業地区公開講座 | 「いじめ防止、命、人権」を題材とした授業を全学級で行う。 |
| ○心を耕す講話・講演会 | 人権を守る講話・講演会を意図的・計画的に実施する。 |
| ○年 3 回のふれあい月間 | ゼロプロを通して、児童発信のいじめ撲滅への取組を行う。 |
| ○いじめ防止月間を設定 | 児童会が主体となって、ポスターや集会等で啓発する。 |
| ○WEBQU 調査の活用 | 年 2 回の調査内容を分析し、学級経営に生かす。 |
| ○言葉を大切にしたい指導 | 「言霊（ことだま）」「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」等 |

③ 平素から意識して児童を観察し、児童アンケート・校内いじめ不登校防止委員会によるいじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決に努める。

④ 指導＝共通行動

- | | |
|---|--------------------------|
| ○物事の基本、人間関係の原点、温かい関係づくりの基本である、「あいさつ」のできる児童を育てる。（意義理解と指導の徹底） | → あいさつ運動・日常生活 |
| ○きまりやルールを守る指導と教員研修（当たり前のことを当たり前に行う） | → 共通行動：全教員が指導価値を揃えて指導する。 |
| ○基本的生活習慣（青山スタンダード）の浸透・徹底 | |
| ○情報モラル教育 | → ゲストティーチャーの活用・定期的な保護者啓発 |

⑤ 異年齢児童や地域との交流活動を進めることにより、思いやりの心の醸成や豊かな人間性の伸長に努める。また、様々な体験活動を通して、場に応じた社会的なきまりを理解し、自ら人権を守ろうとする心情を育成する。

○たてわり班活動（高学年への尊敬と憧れ、下学年へのいたわり） ○ユニセフ活動
 ○近隣保育園児との交流 ○青山特別支援学校との交流 ○地域の方との交流 ○地域行事への積極的な参加 ○体験活動（伝統や文化、農体験）○近隣の企業 ○地域清掃
 ※教育相談体制の充実と配慮、積極的・肯定的な支援過程の評価

- ⑥ ゲストティーチャーの招へいや期間を設定した取組を企画し、多面的に人権尊重の視点や相手意識を学ぶ機会を設定する。（教員研修・いじめ防止の授業、弁護士、専門家）

（２）「よく考え、すすんで学ぶ子」を育てるために（重点目標２） → 短期目標

他者と協働して、思考力・判断力・表現力を身に付け、持続可能な社会を創る力を付ける。

- ① 全ての教育活動は持続可能な社会の創り手の育成につながることを、カリキュラム・マネジメントを通して示す。教科等横断的な指導計画と進行管理、評価のPDCAサイクルによる教育計画を改善することにより、育成する力を明確にした授業の展開と確かな学力の定着を図る。
- ② 全教科指導において生きる力につながる知識及び技能の習得を図る。豊かな言語活動を基盤とした問題解決的・体験的活動を通して思考力・判断力・表現力・コミュニケーション技能の育成を図る。
- ③ 地域コミュニティの核として青山の地域の特色を生かし、人と人とがかかわり合う体験的な学びを軸にした創意ある取組を実践することにより、社会共生や地域貢献、キャリア教育に結び付く学びを実現する。「出合う」「考える」「かかわる」「行動する」取組を意図的・計画的に行う。
- ④ 個に応じた指導、少人数指導を充実させ、児童一人一人の課題に応じた指導を行う。
- ⑤ ICT機器を活用し、個別的な学びと協働的な学び（TRY DAY）の充実を図る。自由進度学習をはじめ、複線型授業（CHALLENGE DAY）を推進するとともに、学校公開のうち年間1回を「MINATO×ICT DAY」に設定する。また、年間2回オンライン授業日を設ける。
- ⑥ MINATOカリキュラムを活用した滑らかな幼小中連携の接続や指導の連続性を保証する。
- ⑦ 指導＝共通行動

○論理的思考力・判断力・表現力のみならず、学びに向かう力や人間性につながる言葉を大切にした言語活動を重視し、全ての教育活動において意識的に取り入れる。
 ○対話的な授業形態を意識し、少人数で意見を述べ合い調整する場を設定する。
 ○専門性を生かした教科担任制による指導の充実を図る。
 ○個に応じた指導の充実 ○自由進度学習・複線型授業
 ○互いのよさを認め合い、高め合う学習を展開する。
 ○体験的な学習を取り入れるために、保護者や地域と連携する。
 ○本時の「めあて」「活動」「まとめ」「ふり返し」を明確にした授業を展開し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。
 ○ノート指導を充実させる。（「めあて」「活動」「まとめ」「ふり返し」）
 ○ICT機器やデジタル教科書を効果的に活用した授業を行う。
 ○地域の人材と協働した教育活動を展開する。（学校地域コーディネーターの活用）

※国際科の授業の充実と環境整備 ※プログラミング教育の推進

【本校・本区における特色的な学習】 ○コミュニティ・スクールの推進 ○学力調査・CBT
 ○地域の方、企業や団体、芸術関係機関と連携した授業 ○環境教育の充実（ビオトープ）
 ○青山アカデミー研究の実施（年3回：幼・小中一貫教育） ○国際科 ○理科教育の推進
 ○学校評議員による授業評価 ○東京ベーシックドリルの活用 ○漢字検定
 ○読書活動の取組 ○読み聞かせボランティアとの連携 ○家庭学習習慣の確立

※教員が互いに学び合う、主任教諭によるOJT ※学力調査の結果分析と活用

【教員の指導力向上】（めざす授業・OJT 校内研修・研究授業）

- ① めあてを明確にした授業
- ② 興味・関心・意欲を高め、知的好奇心を揺さぶり育てる授業
- ③ 自分の考えをもたせる授業
- ④ 友達と学び合い、自らの考えを広げたり深めたりする授業
- ⑤ まとめを明確にした授業

（３）「健康でたくましい子」を育てるために

→ 短期目標

自分の体・健康・安全について関心をもち、望ましい習慣を身に付ける。

- ①授業改善を図り、体育科の授業での運動量を確保する。
- ②日常的な外遊びの奨励や運動習慣確立に向けた運動に取り組む。（縄跳び・持久走）
- ③感染症や病気・けがに対応する知識をもち、自ら健康をつくり維持していく力を身に付ける。

○給食指導と関連させた食育指導 ○体力調査の結果分析
 ○外部講師を招いた授業（体力向上、学校 2020 レガシー）
 ○健康向上月間の実施 ○一校一取組運動 ○ボルダリングウォールの活用

※学校保健委員会の充実

※体力調査等の結果分析と改善策の推進

5 特別支援教育の充実

特別支援学級（あすなる学級）や、すてっぷあつぷ教室で学んでいる児童が在籍しており、特別支援教育の指導技術を共有できる環境にある。また、近隣に東京都立青山特別支援学校があり、児童の交流や教員研修を通して、専門的な知識を共有できる。児童の困り感に寄り添い、保護者と密に連携しながら適切な就学、学習環境の提供、進路指導に向けて全教職員の理解のもと、特別支援教育を進めていく。

- ① 一人一人を尊重し、児童の特性に応じた教育環境を提供することにより、学ぶ意欲を引き出す。
- ② 定期的な研修会、特別支援委員会、ケース会議、スクールカウンセラー、スペシャルニーズアシスタント、関係機関との連携等による個に応じた支援の充実を図る。
- ③ 障害者理解や交流・共同学習について、学校の教育活動全体での一層の推進を図ることにより、互いの理解を深め合い、多様性を尊重する態度の育成を図る。

6 国際理解教育の充実 「言語」「共生」「伝統」

本校には、外国につながるのある児童が在籍している。また、立地から日常生活においても外国人と接する機会に恵まれている。そこで、学校教育において、多様性を認め、国際社会に対応する人材を育てるために、国際科を通して実際のコミュニケーションに活用できる技能の育成を図る。また、地域人材による参観・体験的活動を通して、我が国の伝統・文化を尊重し、郷土を愛する心を育てるとともに、異文化理解や国際感覚、国際人としての資質の基礎を育む。

【日本文化・国際理解教育の充実】

- 日本文化の体験・発信（和楽器・和太鼓教室・お茶・墨はじき体験）○狂言鑑賞（能楽堂）
- タブレット端末を活用した学習活動の充実（オンライン、メトロラーニングの活用）
- 大使館連携 ○海外派遣（5年生代表児童）○学校 2020 レガシー

7 信頼される学校を目指して 「DE 信頼」

- (1) 教員は、自ら指導力の向上を目指し研究・研修を行うこと DE 信頼
- (2) 安全管理・衛生管理が万全 DE 信頼 ※1
- (3) 学校環境の整備・美化 DE 信頼
- (4) 教職員の勤務 DE 信頼
 - ・場に応じた服装と名札の着用 DE 信頼
 - ・丁寧な接遇 DE 信頼
 - ◎電話対応「青山小学校 職員室〇〇です。」
 - ◎来校者への挨拶・対応「こんにちは。どちらにご用事ですか。」
 - ・体罰、服務事故ゼロ DE 信頼
- (5) 報告・連絡・相談の徹底 DE 信頼
- (6) 働き方改革への意識向上 DE 信頼 ※1
- (7) 教育活動を伝える広報活動 DE 信頼
 - ・学校だより ・学年だより ・学校ホームページ ・緊急メール配信システム
 - ・がくぷり ・X（旧ツイッター） ・マイスクール PR コンペティション
- (8) 地域と連携した防災訓練 DE 信頼
- (9) P T A行事や地域の行事に参加 DE 信頼
- (10) 各種調査（いじめ、体罰等）の調査結果に対し、迅速な対応 DE 信頼
- (11) 学校評価・子ども版学校評価の実施と改善を行う DE 信頼

※1 働き方改革の推進

～教員の負担を軽減するとともに、教育活動に専念できる環境づくり～

◎校務分掌の再編成・省力化・効率化を目指す。

◎会議を精選し、効率化を図る。

- ・校務の効率化を図り、遅くとも午後7時に退勤することを目指す。
- ・毎週水曜日は、定時退勤を目標とする。
- ・長期休業期間中の閉庁期間の設定と定時退勤の一層の推進を図る。

◎スクールサポートスタッフ・学校地域コーディネーターを活用し、校務の効率化を図る。

◎教員の校務支援システムの DX 活用を推進する。